

年間で3,100件であった。

また、インターネットのチャット・ルームで警察官が13歳の少女になりすますなどのおとり捜査も行われている^{47,48}。

また、テキサス州の検事局事務所によれば、2003年に結成された同事務所のインターネット犯罪部(Cyber Crimes Unit)により検挙されたインターネットを利用した児童虐待犯罪者の数は118人に上る。同部署では、捜査官が、Yahoo!などのチャット・ルームで13歳の少女を装い、疑わしい者を発見するおとり捜査を日常的に行っており、犯罪被害を未然に食い止める努力を行っている。

こうしたおとり捜査における犯罪者の典型的な行動パターンは、チャット中に相手が13歳の少女だと考えると、性的な内容の会話を始め、電話番号や性的な画像を要求しはじめ、最終的には、実際に会うことを強要するというものである。この場合は、刑法犯となるため、張り込み調査で逮捕される。また、実際に会うところまで行かない場合も、例えば、チャット内の会話で性的な内容を発言したり、画像の要求をしたり、電話番号を教えたりする行為だけでも、同様の刑法犯とみなされ逮捕される場合もある⁴⁹。

1.1.6 青少年のインターネット利用の際のフィルタリング利用率

ピュー・インターネットによる2005年3月発表の「オンライン上の10代の保護(Protecting Teens Online)⁵⁰」によると、家庭におけるフィルタリング・ソフトの利用は、2000年から2005年までの5年間で約65%増加している。

2000年12月に行った同調査では、家庭でフィルタリング・ソフトを利用している保護者の割合は41%(700万人)であったが、これが2005年になると、その利用率は54%(約1,200万人)まで上昇した。ただ、家庭でフィルタリング・ソフトを利用しているこれら保護者においても、保護者が好ましくないと考えているコンテンツを、児童がインターネッ

⁴⁷ Crimes against Children Research Center からの情報入手 (2010年11月23日ヒアリング)。

⁴⁸ カリフォルニア州情報保護室によれば、同州は青少年がインターネット上で受けた犯罪等の被害に関する統計的情報は把握していない。

⁴⁹ テキサス州検事局事務所担当者へのヒアリング (2010年11月22日ヒアリング)。

⁵⁰ ピュー・インターネット「オンライン上の10代の保護(Protecting Teens Online)」2005年3月17日2005年に実施された調査で、米国の家族で10代のインターネットによる有害情報などからの保護についてどのように意識され行われているかなどの調査の結果を纏めた報告書。

<http://www.pewinternet.org/Reports/2005/Protecting-Teens-Online/How-families-navigate-the-potential-challenges-of-being-online/05-The-use-of-filters-to-protect-youth-online-is-growing.aspx?r=1>

ピュー・インターネット Teens and Technology、

<http://www.pewinternet.org/Reports/2005/Protecting-Teens-Online/Summary-of-Findings.aspx>

ピュー・インターネット Protecting Teens Online、

http://www.pewinternet.org/~media/Files/Reports/2005/PIP_Filters_Report.pdf.pdf

ト上で閲覧していると考えている⁵¹。

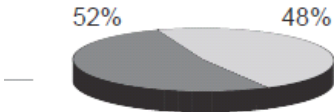
家庭におけるフィルタリング・ソフトの利用は、アフリカ系米国人の保護者の利用が最も高く、その割合は64%となっており、次いで英語を話すラテン系米国人（61%）、白人（52%）と続く。また、低学年の子ども（12～14歳）を持つ保護者の方が、高学年の子ども（15～17歳）の子どもを持つ保護者より、フィルタリング・ソフトを利用する割合が高い（60%対49%）。また、若い保護者（40歳以下）がいる家庭の方が、高年齢の保護者（40歳以上）の家庭よりもフィルタリング・ソフトを利用している割合は高い（66%対50%）。これは若い保護者の方が、低学年の子どもが居る割合が高いことも関係しているとみられる。

カリフォルニア州

カリフォルニア州の場合は、州全体の統計の有無は確認できないが⁵²、例えば前述の「カリフォルニア・サイバー安全サミット」に参加した226人を対象とした「インターネット・テクノロジーへの依存調査」では、家庭で「何らかのフィルタリングを利用しているか」という質問に対し⁵³、フィルタリング・ソフトを「利用している」と回答した者は47.69%（103人）で、「利用していない」と回答した者は52.31%（113人）であった⁵⁴。

図表 10 フィルタリング・ソフトの利用

質問3 子どものコンピューター利用におけるフィルタリング・ソフトの利用の有無		
	数	比率 (%)
利用している	103	47.69
利用していない。	113	52.31
合計	216	100



出所：カリフォルニア・サイバー安全サミット「インターネット・テクノロジーへの依存調査」

⁵¹ NTIA Youth Safety on a Living Internet、

http://www.ntia.doc.gov/reports/2010/OSTWG_Final_Report_060410.pdf P94

日本と違いインターネットへアクセスできる携帯電話は、ここ数年で利用率が伸び人気となってきたが、携帯電話やPSP、iPods等の携帯型ゲーム・プレーヤーで通信におけるフィルタリング・システムは、まだ開発の段階で対策は遅れているといえる。従って、ここで言うフィルタリング・ソフトは家庭用コンピューター向けのことを指していると思われる。

⁵² カリフォルニア州個人情報保護室へのヒアリング（2010年11月18日）。

⁵³ Summary of Governor Arnold Schwarzenegger's 2006 California Cyber Safety Summit

http://www.cybersafety.ca.gov/res/docs/pdf/2006_summitreport.pdf P13～16

⁵⁴ 4年前の調査なので現在は、この数には変化があると見られるが、最近の統計は確認できない。

1.1.7 青少年のインターネット利用に関する親子間の話し合い並びにルール設定の有無及び内容⁵⁵

Harris Interactive-McAfee（以下、McAfee）が2008年10月におこなった調査⁵⁶によれば、母親の72%は子どもとインターネットの利用について話し合っているとされる。

また、ピュー・インターネットの「10代とテクノロジーに関する報告⁵⁷」では、家庭における子どものインターネットの利用に関するルールの設定の有無や、保護者によるサイト・チェックの有無について報告している。その概要は以下のとおりである。

利用時間・時刻の設定

まず、インターネットを利用している10代の子どもを持つ保護者の64%は、子どものインターネットの利用時間・時刻に関するルールを設定しているとされる。2000年に行った同様の調査でも保護者の61%が何らかのルールを設けているとの報告があり、それから大きな変化は見られない。

他方、人種によってその傾向に多少の違いが見られる。例えば、アフリカ系米国人の保護者の71%、英語を母国語とするラテン系の保護者の77%が子どものインターネットの利用時間に何らかのルールを設けているのに対して、白人の保護者でその割合が62%となっている。

図表 11 人種別に見た家庭内でのルールを設定している保護者

アフリカ系米国人の保護者	71%
英語を母国語とするラテン系の保護者	77%
白人の保護者	62%

出所：ピュー・インターネット「10代とテクノロジー」

⁵⁵ テキサス州の公的機関では、こういった統計情報は有していない。
テキサス州検事局事務所担当者へのヒアリング（2010年11月22日）

⁵⁶ Harris Interactive-McAfee 10/2008（Enough is enough より）
<http://www.enough.org/inside.php?id=2uxkjwry8>

⁵⁷ ピュー・インターネット「10代とテクノロジー」 P21（2005年3月）
ピュー・インターネットが10代とテクノロジーの関係について調査を行い、その行動などの実態を研究、発表している。

<http://www.pewinternet.org/Reports/2005/Teens-and-Technology.aspx>

ピュー・インターネット Protecting Teens Online 2005年、

http://www.pewinternet.org/~media/Files/Reports/2005/PIP_Filters_Report.pdf P16

また、保護者自身がインターネット・ユーザーである場合、同様のルールを設定する割合は65%であるが、インターネットを使用していない保護者の場合、その割合は56%に落ちる。

また、母親の方が父親よりも、子どものインターネットの利用時間・時刻にルールを設ける傾向にある。母親の約70%が家庭で同様のルールを設けていると回答しているのに対して、父親の場合はその割合は59%である。また女子の子どもを持つ保護者の方がこういったルールを設ける傾向にある（女子児童67%対男子児童61%）

こういったルールの設定の有無は、子どもの年齢が上がるほどその割合は低くなっている。12歳の子どもの持つ保護者の約80%がインターネットの利用に時間的制限を設けていると回答しているのに対して、15歳の子どもの持つ保護者のその割合は68%、16歳の保護者では52%、17歳の保護者では45%と、特に15歳の子どもの持つ保護者と16歳の子どもの持つ保護者との間で、その比率は大きく落ちる。また、インターネットの利用頻度が高い子どものいる家庭で、同様のルールを定めている割合は61%であるのに対して、インターネットの利用頻度の低い子どものいる家庭のその割合は85%となっている。

図表 12 子どものインターネット利用頻度と家庭のルールの有無

10代のインターネット利用頻度	家庭にルール設定がある割合
高い	61%
低い	85%

出所：ピュー・インターネット

なお、子どものインターネットの利用に関するルールの設定の有無と保護者の学歴や経済状態との間では相関関係は見られない。

インターネットのサイト・チェック

インターネットを利用する子どもがいる家庭の約62%が、インターネット上で子どもがどのようなサイトを訪れたかをチェックしている。この傾向は、家庭内における子どものインターネットの利用に関するルールの設定と同様の傾向も見られ、例えば、ラテン系米国人（76%）やアフリカ系米国人の保護者（73%）の方が、白人（59%）の保護者よりも、自身の子どもが訪れたサイトをチェックする傾向にある。また、低年齢の子どもの持つ保護者の方が、子どもの訪れたサイトをチェックする傾向にある（12～14歳67%、15～17歳61%）。

他方、ルールの設定における結果と若干異なる傾向がみられるのは、保護者の学歴とサイト・チェックの関係である。ルールの設定においては、保護者の学歴によってルールの設定の有無に差は見られなかったが（高卒以下64%、短大卒64%、大卒以上64%）、サイ

ト・チェックにおいては、高学歴な保護者ほど子どもの訪れたサイトをチェックする傾向が強い（高卒以下 57%、短大卒 61%、大卒以上 67%）。また、ルールの設定とは反対に、男子の子どもを持つ保護者の方がサイトのチェックをする傾向にある（女子 55%、男子 68%）。

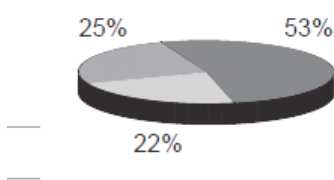
カリフォルニア州

カリフォルニア州のサイバー安全サミットでの意識調査では、子どもが訪れたウェブサイトを知っている保護者の割合は 52.48%（106 人）で、半数の大人が自分の子どものインターネット上の行動を意識しているようであるが、「定期的に子どもの閲覧しているサイトを確認したり、子どもの名前を実際に Google 検索したりするか」という質問に対して肯定的な回答をした者の割合は、28.99%（60 人）という結果であった。

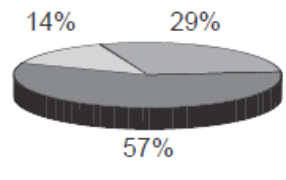
またインターネット上での子どもの行動に対して、「自分の子どもがインターネット上で何をしているのか」を把握することが最も重要だと回答している保護者の割合は、97.50%（195 人）であるのに対して、「カリフォルニア・サイバー安全サミットに参加したことを子どもと会話する」と回答した者の割合は、僅か 6.6%（15 人）であった。

図表 13 子どものインターネット活動

質問4 自分の子どもの閲覧しているウェブサイトを知っているか？		
	数	比率 (%)
知っている	106	52.48
知らない	45	22.28
多少知っている	51	25.25
合計	202	100

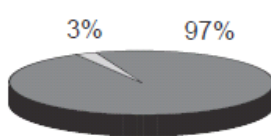


質問5 自分の子どもの閲覧しているウェブサイトを定期的に閲覧するか？自分の子どもをGoogle検索した事があるか？		
	数	比率 (%)
はい	60	28.99
いいえ	119	57.49
時々	28	13.53
合計	207	100

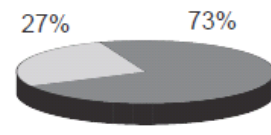


出所：2006年の「カリフォルニア・サイバー安全サミット」での意識調査 p13~16

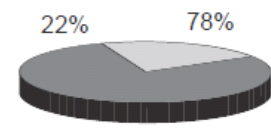
質問 13 重要な点は何か？		
	数	比率 (%)
自分の子どもがインターネットで何をしているかを知ること	195	97.50
自分の子どものプライバシーを尊重すること	5	2.50
合計	200	100



質問 15 今日、学んだことについて自分の子どもと話をするか？		
	数	比率 (%)
はい	11	73.33
いいえ	4	23.67
合計	15	100



質問 11 子どもとインターネットの安全性について話をするのは難しいと思いますか？		
	数	比率 (%)
はい	51	22.08
いいえ	180	77.92
合計	231	100



出所：2006年の「カリフォルニア・サイバー安全サミット」での意識調査 p13～16

1.1.8 その他

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの利用の増加⁵⁸

ピュー・インターネットの調査⁵⁹によると、近年、コンピューターを使ってインターネットを利用する12～17歳の青少年の割合が低下し、反対に、携帯電話やゲーム機などからのインターネットの利用が増えてきているとされる。2010年度現在、青少年の27%が携帯電

⁵⁸ また、調査の対象は、年齢別に加えて、全米の収入別、民族別の調査が行われており、収入と民族の違いもインターネットや携帯の使用の状況に何らかの関連があるとしているようであるが、州別の青少年のインターネットの使用環境に関する調査は多く見ることができない。

ピュー・インターネット「Four or More: The New Demographic Social」、

<http://www.pewinternet.org/Presentations/2010/Jun/Four-or-More--The-New-Demographic.aspx>

ピュー・インターネット「Social Media and Young Adults」、ソーシャル・メディアと青少年の関係について調査を行い、現在どのようなソーシャル・メディアが頻繁に利用されどのような方法での利用が多いのか等の結果を報告。<http://www.pewinternet.org/Reports/2010/Social-Media-and-Young-Adults.aspx>

⁵⁹ ピュー・インターネット詳細の調査データの図表プレゼンテーションファイル。

Four_or_More_The_New_Demographic_6-27-2010.ppt より(調査期間2009年12月。ただし12～17歳への調査については2009年9月に実施。)

話から、24%がPS3やXbox、Wii等のゲーム機からインターネットを利用している。

また、同調査によると、携帯電話からのインターネットの利用では、Facebook等のソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）のサイトへの投稿や、写真の共有などが行われている。2009年現在、10代の青少年の73%がSNSサイトを利用しているとされており、12～13歳は55%、14～17歳の82%が定期的に何らかのSNSサイトを利用している。

他方、Twitterの利用に関しては、10代では8%に留まっている。その中でも頻繁にTwitterを利用しているのは、14～17歳の高校生の年齢層で、10人に1人（10%）が利用しており、12～13歳の利用は未だ5%である。

E-料金

カリフォルニア州でも、合衆国法典により、E-料金を利用する為に学校や図書館はコンピューターにフィルタリング・ソフトを導入する必要があるが、州政府でもE-料金利用の際の規則の作成の義務付けにあたり、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）教育を重視している。そのため、学校の規則を作成する教師のために資料を提供し、その使用を義務付けている。インターネットに詳しくない教師は生徒に対して正しく安全なインターネットの利用を教えることができない場合があることから、同州では、生徒に正しい教育をするには、教師に対しても正しい教育が必要であると認識している⁶⁰。

■テキサス州

青少年の年齢

テキサス州検事局では、インターネットを利用する年齢層は、学校に通い始める7～8歳ぐらいからであると認識している。また、未成年者とは、学校を卒業する18歳までとみなされている。ただしこの未成年に関する定義は、法規の内容によっては、16歳以下としている場合もある⁶¹。

⁶⁰ カリフォルニア州個人情報保護室へのヒアリング（2010年11月18日）。

⁶¹ テキサス州検事局事務所担当者からの情報入手。2010年11月22日ヒアリング調査より。